

R3年1月15日（金）

テーマ：誰もが関わる糖尿病の理解と看護

講師：小畑香寿美先生 済生会有田病院 糖尿病看護認定看護師

場所：看護研修センター

参加者：46名

ねらい

- ・糖尿病の基礎知識を学び看護に活用できる。
- ・糖尿病患者の生活指導ができる。

糖尿病の歴史から疾患の理解、看護に至るまで実にたくさんの学びができました。

中でも、糖尿病看護、セルフマネジメントやコミュニケーションの大切さを再認識しました。

『糖尿病看護は、指導者からパートナーになる』ということが印象的でした。



何のためにセルフマネジメントをするのか・・・

- ① 自分らしい生活をするため
- ② 自分らしく生きるため
- ③ 自分らしく生活を楽しむため

グループワークでは面接スキルについて問いかけしました。

聴くことの重要性についても学びました。



R3 年 1 月 20 日（水）

テーマ：看護に活かす臨床推論 ～重症化・急変予測に必要なスキル～

講 師：穴井聖二先生 県立医科大学附属病院 集中ケア認定看護師

場 所：看護研修センター

参加者：56 名

ねらい ・救急外来、病棟、施設・在宅等で活躍する看護師が、対象者の状態変化時に最良の判断に基づく行動を起こすことを可能にするためのプロセスを学ぶ。

臨床推論の方法や緊急時の判定・初期評価、症状別アセスメントについて学びました。



実際に事例検討をすることで学習内容が深まりました。

ワークでは事例を通し臨床推論プロセスを考えました。

*重症度・緊急度の判断に役立つ。看護場面で役立つ。ケアの質向上につながる。そして、患者の変化に仮説を立てて対応できる。そのためには、自己の訓練の継続が重要になってきます。



R3 年 1 月 23 日 (土)

テーマ：組織の看護倫理に向き合う 看護管理者に倫理的感性を磨いてほしい！！

講 師：鶴若麻里先生 聖路加国際大学准教授

場 所：看護研修センター (W e b 研修)

参加者：45 名

ねらい ・看護管理者として、倫理感のある組織文化を醸成するための、取り組みのヒント学ぶ。

W e b 研修として開催しました。

* 倫理のかなめは、相手の身になって考えます

* 知的な洞察力+ひらかれた想像力+創造的に取り組むことが重要です



＊ ＊ 看護管理者に求められる倫理性 ＊ ＊

- ・ スタッフの尊厳と権利の尊重
- ・ スタッフのプライバシーの尊重
- ・ スタッフの知る権利と自己決定の尊重
- ・ スタッフの保護と安全の確保



グループワークでは、自分自身のマネジメントについて振り返りました

自らも含めスタッフ
の倫理感性を高める
手立てを学びました



R3 年 1 月 26 日（火）

テーマ：認知症に寄り添う看護

講 師：岸田悦子先生 県立医科大学附属病院紀北分院 認知症看護認定看護師

場 所：看護研修センター

参加者：39 名

- ねらい
- ・せん妄患者看護の知識と技術を理解することで実践現場で活用できる。
 - ・せん妄患者のアセスメントをすることで危険を予測し、患者の安全を守ることができる。



- ・せん妄と認知症の違いについて理解できました。
- ・コミュニケーションが困難なため、認知症ケアの極意として優しく接するためにどうすればよいか。ケアすることで双方が、感じる気持ち ①見る ②話す ③触れる ④立つに 4つの項目が大切です。
- ・パーソン・センタード・ケア（すべての人に価値があることを認め、その人の立場に立って尊重するケアを行うこと。）はケア現場の風土を変える第一歩になります。



- ・グループで事例について検討し、発表しました。
- ・認知症看護に対する考え方が共有できました。

R3 年 1 月 28 日 (木)

テーマ：これからの看護職のストレス対策に必要なセルフ・コンパッション

講 師：秋山美紀先生 東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 准教授

場 所：看護研修センター (W e b 研修)

参加者：33 名

ねらい 円滑なコミュニケーションの方法と事故のストレスマネジメントが理解できる。

W e b 研修として開催しました。普段の対面の講義と変わらなく聴講できた。想像していたより講師の先生との距離感もなく会場一体となって受講できた。質問タイムについては、しづらかった。との意見がありました。

セルフコンパッション：こころのバッテリーを充電する一つの方法である。その要素として自分自身への思いやり、自分に対するやさしさ、共通の人間性、マインドフルネスがある。



・ LKM を実際にすることで癒されました

・ 自分を大切にする
ことで他人にも親切
にできます。

ネガティブスパイラルに引き込まれないように日々ポジティブでありたいです。

R3 年 1 月 30 日 (土)

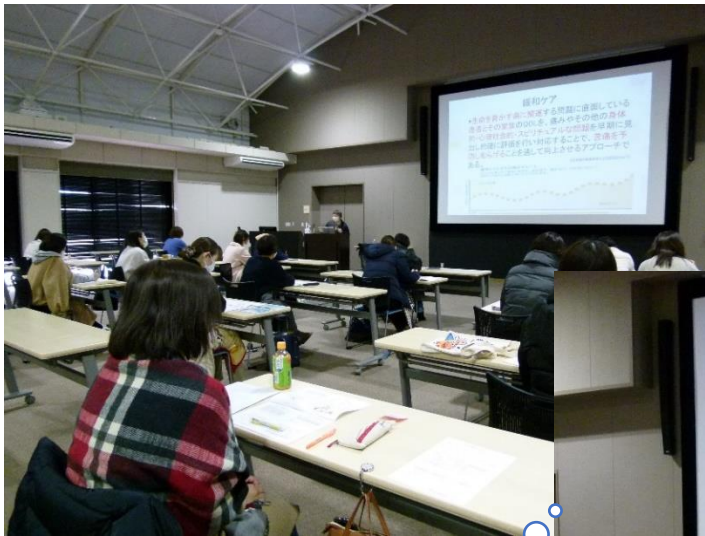
テーマ：エンド・オブ・ライフケアを学ぶ（一般部病棟編）

講 師：山本真由先生 県立医科大学附属病院紀北分院 緩和ケア認定看護師

場 所：看護研修センター

参加者：23 名

- ねらい
- ・患者のニーズに応じたエンド・オブ・ライフケアが提供できる知識・技術を学ぶ。
 - ・看取りそのものに対する具体的な関わり方を学ぶ。



* 人生の最後をどう過ごしたいか。

QOD (Quality・Of・Dying)：いかに満足して死を迎えるか・・・

- ・家族に対するケア
 - ・看取りについて
 - ・コミュニケーションの重要性
- について学びを新たにしました。